

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

教材研究の手法： 中学校・高等学校の検定教科書进行分析する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2023-03-27 キーワード (Ja): 教材研究, 検定教科書, 分析, 英語科教育法 キーワード (En): 作成者: 小栗, 裕子 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00008085

教材研究の手法

— 中学校・高等学校の検定教科書を分析する —

小 栗 裕 子

要 旨

「教材」は「学習者」、「教師」と共に授業を構成する三大要素の一つだと言われている。教材と学習者、教材と教師はそれぞれ密接な関係にあり、教材の内容が学ぶ側にとって理解しやすく、興味・関心があり自主学習にも適していれば、自ずと学習意欲は高くなる。また教師が主に使用する教科書（教材）は指導法に大きく影響を与えている。しかしながら、中学校・高等学校の教員になるために必要な「英語科教育法」の主要なテキストのこれら3つの扱いは大きく異なっている。それはどのテキストも「学習者」については詳細に解説しているが、「教材」の研究方法については全く言及していないものも存在しているからである。

そこで本稿では最初に教材研究の意義を、次にその手法をいくつか紹介する。そして検定教科書を中心に教材分析について具体例を提示し、最後に「教材」を研究する必要性を述べる。

キーワード：教材研究、検定教科書、分析、英語科教育法

1. はじめに

「教材」は「学習者」、「教師」と共に授業を構成する三大要素の一つだと言われている。教材と学習者、教材と教師はそれぞれ密接な関係にあり、教材の内容が学ぶ側にとって理解しやすく、興味・関心があり自主学習にも適していれば、自ずと学習意欲は高くなる。また教師が主に使用する教科書（教材）は指導法に大きく影響を与えている。なぜなら望月他（2018, p.214）が指摘しているように「教師にとって教材は効果的な授業を行い、シラバスやカリキュラムの目標を達成するための道具の一つだから」である。

このように学習者にも教師にも影響を与えている「教材」だが、中学校・高等学校の英語教諭免許取得のために教材として使用されている「英語科教育法」の主なテキスト（たとえば、望月他, 2018; 赤松他, 2018; 土屋他, 2019; 石田他, 2020）の「教材」に対する扱いには大きな違いが見られる。というのは「学習者」についてはどれもページを割いて様々な要因を挙げ説明しているのだが、「教師」と「教材」に関してはその扱いに差が生じているからである。特に後者は、「教科書と教材研究」と題して1章全てを使って具体的な分析方法について解説をしているテキストがある一方で、全く言及していないものもある。これらのテキストは当然紙

面が限られていて、将来教師になるために必要な事項を全て網羅することは不可能であろうが、自分たちが使用する「教材」についてどのように研究を進めていけばより効果的な指導ができるのかを理解しておくことで、「教材」を有効に活用できるのではないだろうか。

そこで、本稿では教師を目指している大学生に焦点を当て、最初に「教材」研究の意義を、次にその「手法」をいくつか紹介する。そして、検定教科書を中心に教材分析について具体例を提示し、最後に「教材」研究の必要性を述べる。なお、ここで使用している「教材」とはコースブックとして授業で主に用いられる文部科学省の検定に合格をした（検定済）英語の「教科書」を指す。

2. 教材研究の意義

日本の小・中・高等学校で使用されている教科書は、指導内容の枠組みを提供している「学習指導要領」に沿って編集されており、民間の教科書会社が作成した教科書が学校で使用されるために相応しい内容となっているか審査をする「検定」制度に合格している。英語で言えば文法事項や語彙数の適性に加えて不自然な表現や差別等の不適切な内容も十分考慮され編集されているので、そういった意味では経験の少ない教員でも検定に合格した教科書を用いて授業を行えば、教科の目的に準じて教えたことになると言えるだろう。

それでは、検定基準に合格した教科書をあえて研究する意義とはどんなところにあるのだろうか。それは一言で言えば教師自身がこれから使用する教科書の利点や欠点をより深く知る（理解する）ことではないだろうか。教科書の特徴を十分理解していれば、本文のみでは不十分で説明を加えた方がわかりやすい箇所の準備ができる。そして教師は現在教えている生徒の特徴を指導するなかで捉えているので、補充すべき副教材も用意できよう。また、教科書は「学習指導要領」が改訂され、それを基に1、2年費やして編集され、その後審査に1年、採択に1年と続き、実際教室で使用されるまでには数年の時差があることを考慮する必要がある。その上、教科書の改訂が4年に一度の周期で行われることも加わる。時には生徒の興味・関心と若干ずれている場面や内容がある場合が予想されるが、そのような時、教室で今指導している生徒にとって興味・関心のある話題を適宜用意し、導入の際などに置き換えることで生徒の学習意欲をより高めることになる。

3. 教材研究の手法

既に多くの教員は上記で述べたことを授業の準備（予習）として行っているであろう。教材研究は授業の前のみでなく、授業中や授業後にも行う必要がある。事前に準備した内容がはた

して授業で十分活用されたのか、また授業中の生徒の反応は予測したとおりだったのか、さらに授業後には実際に教えた内容についての「振り返り」も重要になってくる。次年度に向けての改善点や補足箇所なども記しておくことがより充実した指導につながる。

次にこの教材研究の視野を少し広げて考えてみよう。それは教科書を選択することを視野に入れての教材研究である。望月他（2018, p.215）は教師の裁量を超えることがあるとしながらも（特に中学校では）、事前の教材研究の中に教材評価を組み込むことを提案している。これはどの教科書を選ぶかを決定する段階で使用する教科書の特性を把握することだが、同時に教材研究としても活用でき、望月他（2018, p.215）は以下の10項目を評価基準に挙げている。教科書選定が直接可能な高等学校での教材研究には特に参考になるのではないだろうか。

- ① 自分の言語習得観や教材観と適合するか
- ② シラバスや教授法は妥当か
- ③ 学習指導要領の内容はどのように具現化されているか
- ④ 使用上の自由度が確保されているかどうか
- ⑤ 補助教材や資料など充実しているか
- ⑥ 各学年の教科書間の連携、各科目の関連性はどうか
- ⑦ 目標は明確か、またそれは学校の指導目標や制度（入試などの）との整合性はあるか
- ⑧ 言語材料と言語活動は適切で関連性があるか
- ⑨ 4技能のバランスはよいか
- ⑩ 文化や価値観の違和感はないか

これらは指導する側からの評価基準だが、生徒にとって教科書は学習材となり、学習者として学びやすいかどうかの視点で教科書の特徴を見る必要があることも無視できない。望月他（2018, pp.215-216）はその基準を10項目提案している。この場合も高等学校での教材研究として役に立つのではないだろうか。

- ① 本文や例文の英語、課題や活動は適切で論理的か
- ② 難易度は適切か
- ③ 動機づけや興味の持続ができるか
- ④ 題材は生徒のニーズに合っているか
- ⑤ タスクは変化に富んでいるか
- ⑥ 生徒にとっての本物らしさがあるか
- ⑦ 自主学習はしやすいか
- ⑧ 指示や説明は明確か
- ⑨ 学習の支援情報は与えられているか
- ⑩ 達成度、成就度が感じられるか

また、自分が使用する教科書を他の教科書と比較することも教材研究としては有意義であろう。望月他（2018, p.218）は同じ言語材料や似通った話題を他の複数教科書と比べることを奨励している。それにより、他とは異なったユニークな部分などの特質が一目瞭然に理解できるとその利点を強調している。

筆者が担当している「英語科教育法Ⅰ」の受講生30名ほどのクラスでは、30回のうち1回90分を「教材研究」の時間とし、中学校の教科書を各グループで比較する活動を行っている。比

比較分析する教科書は学年別とし、6社のうち採択率の高い3・4社の教科書を選びそれぞれのグループで最初にどのような基準で比較するのか（例えば、タスクはどのようなものが多いか）を話し合う。その後それらの基準項目を4点程決定し、比較結果を表にまとめ、最終的にクラス全体でグループ毎に発見したことを報告し合うという流れである。最初の分析項目についてグループでの話し合いがあり、最後に全体での報告および各自「振り返り」の時間を除くと教科書を比較する時間は40分たらずである。しかしながら、その日の「振り返り」には予想以上に多くのコメントが寄せられていて、学生たちがいかに短時間で刺激を受けたかが伺われる。その一部をここに紹介する。

- ・ 今日実際に教科書を分析してみて、比較をすることで教科書の特徴が分かりやすかった。3つの教科書で違うところもたくさんあったが、共通しているところも多くあって、どの教科書もたくさんの工夫がされていると思った。
- ・ 今まで教科書にはそこまでの違いはないと思っていたが、想像以上に異なっていて驚いた。念入りの教科書分析は非常に大切であるし、これから行っていきたい。
- ・ 同じ学習指導要領に沿って教科書を作っているのに、こんなにも題材・内容や脚注に違いがあるのに驚いた。
- ・ 実際に教科書分析をしてみて、教科書によって大きな違いがたくさんあることに気がつき、びっくりしました。教科書にイラストばかりではなく実際の写真を入れることで現実感が増し、実用的に使ってみたい！と思えるきっかけになるように思いました。
- ・ 教材研究をするまではどの教科書も同じようなもので、あまり変わらないだろうと考えていました。しかし、いざ教科書を比較すると違うところがどんどん出てきて驚きました。
- ・ 今日4つの教科書を比較しました。扱う題材や文法説明の量、イラストの量など、それぞれ違ってとても面白かったです。NHはていねいに学ぶ、HWGは深く学ぶ、SSは楽しく学ぶといった印象を受けました。

比較した教科書は前年度（2021年）に全学年改訂されており、語彙数が1200語から1600～1800語と著しく増加したことが注目されているが、受講生たちが中学校の時に使用した教科書とはかなり内容的にも豊富になっている。「振り返り」から推測されるように、彼・彼女らの多くがこれから教育実習に行くまでに「教材研究」をする必要性を強く感じたようである。

4.1 教材分析1

それではどのような方法で「教材」がもっている特質をさらに深く分析していけば良いのであろうか。ここでは「題材」と「体様」の2つを取り上げて、具体的に見ていきたい。

小串（2011, p.93）によると教科書の題材は生徒に意味ある情報を提供し、視野を広め、個人としてあるいは社会人としての成長を促すものであると位置づけ、題材の重要性を指摘している。そこで、平岡（2020）はこの題材に着目し、中学校で採択率の高かった3社の教科書を選び、3年間で題材がどれほど全体的にバランスの取れた内容になっているかの比較分析を行っている。ここでいう題材は「学習指導要領」で扱う題材の例として「英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げる」を用いている。本稿では3社のうち2社の教科書を選び、題材にどれほど各教科書で差があるのかを比較したグラフを取り上げる。

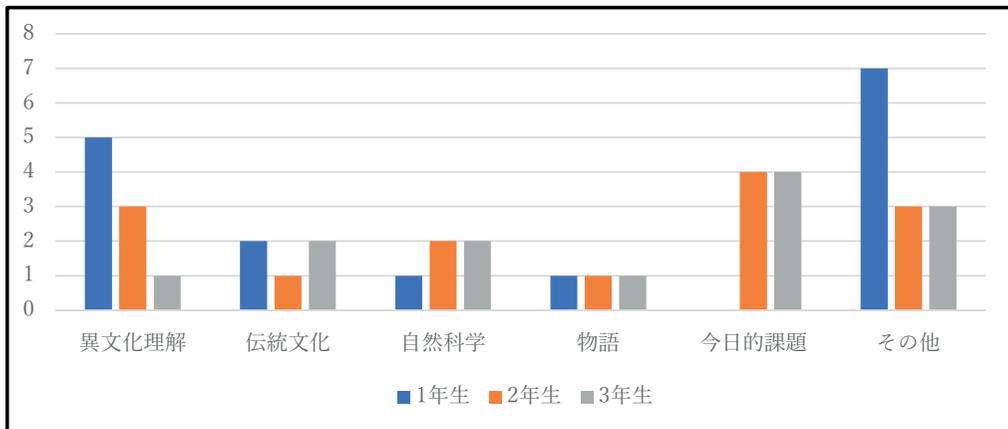


図1: *Horizon* のグラフ (平岡, 2020, p.38より)

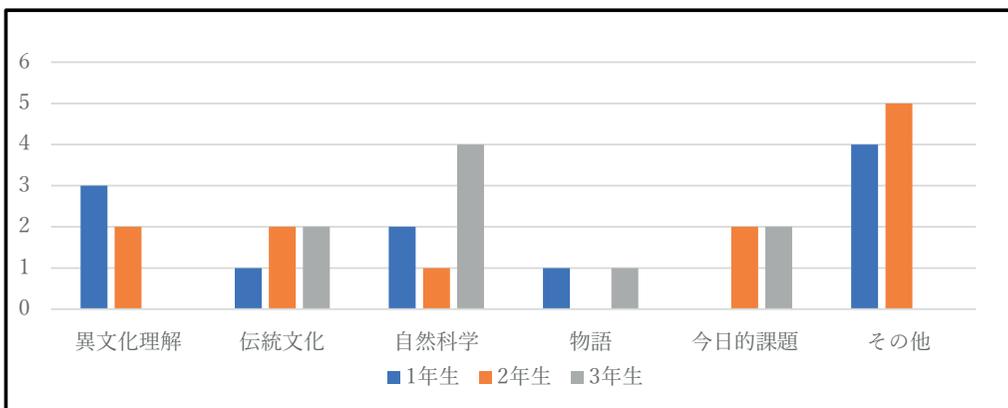


図2: *Sunshine* のグラフ (平岡, 2020, p.39より)

この比較分析により、平岡（2020）は教科書によっては全く取り扱わない題材がある点や均衡の取れていない題材があることを指摘している。そして、教科書で扱われる題材は生徒の学習意欲を高めるために大切な役割を果たしているため、題材が偏らないように生徒の好奇心を満遍なく引くような題材選びを心がけなくてはいけないと結んでいる。このような教材分析結果は教科書を編集する側にも有用だが、教師にとっても利用できるのではないだろうか。それは不足している題材がどの分野か前もってわかっていたら、それを意識し、どこかで補いながら指導できるからである。

4.2 教材分析2

小串（2011）は教科書の外的評価と内的評価に分けて教材分析する方法を提案しているが、教科書の大きさや内部のメモ書きなどの使いやすさと関連していることを考えると「体様」は特に学習者にとって大切であろう。小串（2011, p.99）は体様を次のように分類している。

- (1) 紙質、印刷、製本等
- (2) 判型
- (3) ページ数
- (4) 図版、イラストなどの分量
- (5) 色刷りページ
- (6) 活字
- (7) ページ・レイアウト

そして、特に（4）のイラストでは「生徒の情操のレベルに合わせた適切なイラストは、教科書の印象を親しみやすいものにするために大いに役立つ」（p.100）と述べている。

鎌田（2022）はこの外的評価の視点から、教科書のデザインや構成、レイアウトが学習者にどのような影響を与えているのか質問紙を用いて調査をしている。現在大学生の47名に中学校の時に次のような「教科書の内部に写真やイラストが多いことで学習意欲は変化しましたか。」「教科書に登場する人物・キャラクターによって学習意欲は変化しましたか。」や「教科書の余白の量によって学習意欲が変化しましたか。」と言った20ほどの質問項目を用意して、その回答結果を分析している。参考までに5段階評価で平均点が高かった項目を以下に記す。

- ・写真やイラストが多い教科書によって学習意欲が高まった（平均4.0）
- ・実在する人物・キャラクターが多く登場することで学習意欲が高まった（平均3.7）
- ・普通紙のような素材のものによって学習意欲が高まった（平均3.6）

（この問いは教科書の素材についてのもので、ノートのように書きやすい素材を選んだものと思われる）

鎌田（2022, p.23）はこの結果から「教科書内部の写真やイラスト」およびメモなどが書きやすい「素材」や「余白」の多さが学習意欲と強く関連していると述べている。そして、「現在

の英語検定教科書が以前の英語検定教科書に比べてスポーツ選手や世間で話題の人物等の実在する人物や流行りの漫画・アニメキャラクターを積極的に使用する傾向になっていることは良い傾向である」と結論づけている。こうしたことは学習者にとって学習意欲に影響を与えていると同時に教師が副教材を作成する上で、レイアウトを考案する時や出版社が教科書を編集する際の「体様」決定の参考になるのではないだろうか。ただし、この分析結果は英語に興味のある、英語を専門としている大学生に「中学校の教科書」に対して行われたことや回答者の人数が47名と限られていることから、今後の研究が待たれる。

5. おわりに

ここまで「教材」を研究する意義について、そして実際の分析方法について述べてきた。

「はじめに」で記したように「教材」は「学習者」と「教師」の間で密接な関係にあり、教師が「学習者」の特性を知ることがよりよい指導につながると同様、「教材」の特徴を深く理解することでより良い指導に結びつくのではないだろうか。通常大学生は自分たちが中学校や高等学校で使用した教科書についての内容は記憶に残っているであろうが、他の出版社が発行している教科書にどのような題材があり、イラストや文法事項の説明がどうなっているかについては知ることがないだろう。本稿の3. 教材研究の手法で「英語科教育法1」の受講生たちがコメントしているように、他の教科書と比較することによりそれぞれの教科書の類似点や相違点を実感し、工夫されたところや説明不足の箇所などが多く存在していることに気づかされるのである。そして、その結果が教育実習前に「教材研究」の必要性を強く認識したのである。よく「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」と言われるが、それは望月他(2018, p.225)が比喩的に表現しているように教科書をいかに「料理」するかということである。「料理法」の基本を大学生の時に身につけていけば、その後教員になった時、この基本は大きく活かされるのではないだろうか。

謝辞

本稿は2022年に本学で開催された「英語教員のための夏期リフレッシュコースー英語教育の理論と実践の融合を目指してー」(主催: 関西外国語大学大学院)のProceedings「教材研究の手法ー中・高の検定教科書を分析するー」に加筆修正したものである。「振り返り」の内容掲載を快く許可してくれた「英語科教育法1」の受講生みなさんに感謝します。また2名の査読者から貴重なご助言をいただきました。ここに心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 赤松信彦・田中貴子・能登原祥之・網井勇吾（2018）.『英語指導法理論と実践 21世紀型英語教育の探究』.
東京：英宝社.
- 石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄・齋藤嘉則（2020）.『改訂版新しい英語科授業の実践—グローバル時代の人材育成を目指して』.東京：金星堂.
- 小串雅則（2011）.『英語検定教科書 制度、教材、そして活用』.東京：三省堂.
- 鎌田優委（2022）.「中学校英語検定教科書が学習者の動機づけにもたらす影響—教科書のデザイン・構成、レイアウトに焦点を当てて—」.『教育研究・実践集録』.第15号, 18-26.
- 土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道（2019）.『最新英語科教育法入門』.東京：研究社.
- 平岡琢郎（2020）.「中学校英語検定教科書における題材の比較研究」.『教育研究・実践集録』.第13号, 33-41.
- 望月昭彦・久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司（2018）.『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』.東京：大修館書店.
- 文部科学省（2008）.『中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 外国語編』.東京：開隆堂出版.

（おぐり・ゆうこ 外国語学部教授）